



2025 年 11 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は最高気温が 30 度を超えて、初夏の陽気になってきました。
銅価格は平均 4.9 ドルで今年になり 25%近く上昇していますので、チリ政府の歳入は昨年より大幅に増えそうです。今後も半導体メーカーの需要が堅調で銅価格は高値が続きそうです。為替はドルに対して 950 ペソあたりで落ち着いています。
最新の 11 月 16 日大統領選挙の支持率はホセ・アントニオ・カスト（右派）が 20%、ジャネット・ハラ（左派）が 27%で二人がトップを争い、エブリン・マテイ（中道右派）が 13%です。10 月末のアルゼンチン中間選挙は、現職与党のミレイ大統領が大勝しています。南米のトランプ大統領と言われ、米国から今後は金融支援を受けます。

2. 世界市況

米国と中国のトランプ関税は最悪のシナリオは避けられそうですが、中国経済の回復はまだ見えず時間がかかりそうです。今後イスラエルの停戦が確実に施行されて、ガザ地区の戦後復興が本格的に始まれば、大量の土木工事の下級材が必要になります。
現行でも欧州、バルト三国からのホワイトウッド下級材の供給はタイトな市況が続いており、中近東からのチリ材が利用促進される可能性が出てきました。
来年はチリから年間 6 本のバルク配船を中近東に計画しており、販売数量は 30 万 m3 を予定しています。
韓国市場は中国向け輸出梱包材が低迷していますが、韓国国内でチリ材が N Z 丸太からの製材、N Z 材、ホワイトウッド下級材と競合をして市場シェアを確保しているので、今年は昨年よりやや多い 37-38 万 m3 の販売数量を予定しています。
日本は昨年より約 15%少ない 14-15 万 m3 の販売数量になりそうです。
2018 年が約 33 万 m3 で過去 10 年のピークでした。今年の輸入数量は 50%以上減少する見込みで、来年も今年と同様の販売数量を確保したい方針です。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2025 年 10 月配船（4 番船）はチリを 10 月 24 日に出港しており、11 月下旬に川崎へ入港して 12 月中旬までに名古屋、大阪へ寄港します。今回も前回同様に中国向け銅コイルとの共積み配船となります。

アラウコの次回 12 月バルク配船（5 番船）は現地を 12 月下旬までに出港して、日本各港へは来年 2 月に入港する予定です。

当初予定の 2026 年バルク配船が中近東配船との生産スケジュール調整が必要となり、1 番船は現地 2 月積みから 3 月積みに遅れることになりました。

来年は今年同様に年間 5 本のバルク船を約 70 日間隔で配船するスケジュールです。

CMP C は年間 6 回のコンテナ配船を来年は予定しております。

b) 梱包市況

10 月の梱包市場は 9 月同様に緩やかな回復傾向ですが、個別の案件で輸出木箱の引き合いがあるなど単発的な需要も多く、市況に秋需要の強さはありません。

引き続き中国経済は低迷をしており、中国向け輸出梱包材の回復は見えていません。

半導体メーカーを中心に梱包資材を L V L, 合板に指定する動きは出ており、製材の販売が伸びない原因にもなっております。

高市政権になり、今後は国内景気を刺激する政策も考えられ、物流が動けば梱包材市況にはプラスに寄与する可能性が出てきました。

バルク配船の間隔が 3 番船と 4 番船で 3 ヶ月近くになり、各社の在庫水準は 2.0 ヶ月前後でややタイトな市況です。

為替は 145-150 円のレンジから 150-155 円に推移しており、高市新政権と日銀の対応により円安ドル高相場が続くか注目していく必要があります。今後の為替相場によっては 5 番船の輸入コストが上がる為、来年前半に製材の値上げが必要になるかもしれません。

建築向け国産材の集成材は欧州、米材の輸入材より価格競争力があります。

しかし国内製材工場は製材コストの上昇、物流コストの上昇、人手不足で製材数量の伸びは厳しい状況です。大手製材工場を中心に引き続き原木の確保が優先されています。

以 上